



相模原大野ロータリークラブ

- ◆会 長:布野 一喬 ◆幹 事:齋藤美希子 ◆副 会 長:宮崎雄一郎
◆S A A:笠井 透 ◆会報委員:宮崎雄一郎 ◆URL: <http://www.s-oono-rc.jp>
◆事 務 局:〒252-0238 相模原市中央区星が丘 3-5-16 ◆TEL/FAX:042(755)0901
◆例 会 場:相模原ゴルフクラブ 〒252-0331 相模原市南区大野台 4-30-1
◆例 会 日:毎週水曜日 12:30~13:30 ◆E-mail: oono-rc@mx1.alpha-web.ne.jp

2019 年 (令和元年) 12 月 11 日 第 1254 回例会

会長の時間:布野一喬

皆さんには無関係な話だと思いますが今日は、鬱病の話をしたと思います。チェックシートがあり、①1日中憂鬱な気分が続いている。②何に対しても興味や喜びが持てない。③疲れやすくやる気が起きない。④集中力・注意力が低下している。⑤自分には価値が無いと感じ、自信が喪失している。⑥自分が悪い、自分の責任だと罪の意識を感じる。⑦将来に希望が持てず、悲観的な気分である。⑧自殺を考える事がある。⑨夜寝付けない、夜中に目が覚める。朝早く目が覚める、寝過ぎてしまう。⑩食欲低下または食欲増加が起きている。以上の10項目です。該当数が多いほど危険だという事です。6個以上は注意、8個以上は要注意だそうです。私は⑩食欲増加で困っています。12月のこの時期に思い出すのが、学生時代の1歳下の後輩が鬱病で飛び降り自殺をしたことです。年の瀬になると自殺が増えると聞きますし、気候的な要因もあるのかもしれませんが、そもそも、鬱病になる人ならない人がいると思いますが、ならない人は受け流し方が上手だったり、発散できる趣味が豊富だったり、ストレスを溜めないことが重要です。ストレスに強くなるために、ストレス耐性を付けなさいと一時期は言われていましたが、今は、ストレス耐性が付いていても鬱にはなってしまうそうです。では、どのようなストレス耐性を付ければ良いのか、レジリエンス (resilience) と言うのがあります。英語でバネのしなやかさと言う意味があり、固く強くすると折れ易くなりますが、折れないしなやかさ・柔軟性を付ける事が必要だと言われています。私はストレスが溜まって来ると、家族に内緒で漫画喫茶に行き、個室に籠り、身体に良くないものを平気で食べながら、ひたすら漫画を読み、罪悪感をバネに明日から頑張ろうという気持ちに持っていきます。レジリエンスを高める方法として、自己認識、自制心、精神的敏捷性、客観性など、広い包括的視野で自分を見ることです。1日3回、今日有った良い

出来事を書く、これは鬱病の人には出来ないそうです。“食事が美味しかった”も良い事と捉え、何事もプラス思考で考えられるようになれば良いそうですが、もっと手っ取り早いのが運動です。軽い運動を毎日45分位すると良いそうです。今の若い人達は、忍耐力が無く、協調性に欠けると言われます。私も常に、従業員である彼らに、どのようなアドバイスができるかを考えています。今後AIが更に進化すれば、自信喪失になる人が増えてくるのかなと考えてしまいます。運動の啓蒙、プラスな事を朝礼で話すとか、そういった事も大切だと思っています。

幹事報告:齋藤美希子

- ・職業奉仕月間卓話者派遣の件 1/15 取住悦子委員
- ・2020-21年度実施プロジェクト向け「第2回地区補助金説明会」の案内 1/25 13時 第一相澤ビル

例会変更 ※ビジター受付=クラブ事務局

- 12/13 (金) 相模原グリーン※
12/16 (月) 相模原東※
12/17 (火) 相模原南 大和
12/18 (水) 相模原西
12/19 (木) 津久井中央 相模原橋本 ニューシティ
12/20 (金) 津久井 相模原グリーン※
12/23 (月) 相模原柴胡※
12/24 (火) 相模原中※

新年例会
日時: 1/8 (水)
19:30 点鐘
会場: 相模大野
「ガクさん」



週報受領 相模原南 相模原グリーン 相模原柴胡

その他来信 比国育英バギオ基金 (事業報告書他)

《理事会報告》

- * ふるさとコンサート協賛金・奉仕会計より2万円
- * 1/8 新年会・19:30 点鐘「ガクさん」会費:5千円
- * 2/5 移動例会・会場未定 (経費面を考慮して)
- * 1月プログラム・クラブHP・週報でご確認下さい
- * 新会員の集い登録料・個人負担
- * Xmas 会費・1万円 (出欠に関わらず全員集金)
- * 笠井会員退会の件・退会届受理 12月末退会承認
- * クラブ会計状況・半期で実質赤字。定期解約承認。

《会長幹事会報告》

- * ガバナーノミニージェグネート・・佐藤祐一郎氏
- * 第5グループ台風被害義援金・・134万円(昨日迄)
- * 地区台風被害義援金・・305万円(津久井・箱根地域に)
- * ポリオ根絶コンサート・・4/5(日)券は寄付対象者に
- * 国際大会登録状況・・65名登録、地区では150名予測、12/14以降登録料が550\$に。
- * IM・・2/22(土)センチュリー相模大野で開催。
テーマ「若者と“生きる”を考える」

青少年とのパネルディスカッション

登録料：8,000円(全員登録)

基調講演：iPS細胞を使った再生医療と治療法の開発

卓話：加藤良夫会員



先月末を以って、相模原ゴルフクラブを退任しました。約50年に亘り携わってきたゴルフ業界の変遷について振り返ってみました。そもそも、私がこの会社に入社したのは、父親が勤務していたからです。昭和44年、事務員が1人不足しているの、働いてみたらどうかと言われました。私は事務系より技術系の人間なので迷いましたが、数字が好きな事もあり、取り敢えず働いてみようかと軽い気持ちでした。当時の国内のゴルフ場は約500コース、接待ゴルフが中心であり、当クラブの会員も殆どが東京を中心とした上場企業の役員クラス、政財界人、スポーツ選手、映画俳優などです。相模原在住の会員はいませんでした。因みに、当クラブは創立が昭和28年、開場が昭和30年です。経営形態は株式会社となっていますが、当初ゴルフ場はスポーツ振興の目的から文部省の管轄で、当然ながら営利企業の株式会社ではなく、社団法人として組織されていました。ところが当クラブが申請した昭和28年に、突然ゴルフ場は公益性がない、社団法人は許可しないことになり、急遽、株式会社にした経緯があります。税制面からも、ゴルフは麻雀・パチンコと同じ括りで、昭和29年から娯楽施設利用税が徴収される事になりました。その後、消費税が導入されても、ゴルフだけは今でもゴルフ場利用税として残っています。現在でも、ゴルフ場は職業分類で娯楽施設業、ゴルフに関わる費用は経費では認めてくれません。ゴルフは

出席報告

スポーツではなく、娯楽と言う見解

なのです。当クラブの創立の発起人は、当時毎日新聞社の会長・社長を歴任した高石真五郎氏で、昭和39年の東京五輪を誘致した方です。当時の記録映像には、一部競技のメダルを授与している姿が映っています。私の入社時に戻りますが、当時は高度経済成長期で、ゴルフ業界も第2次ゴルフブーム、石油危機等ありましたが、景気には左右されず昭和50年には1,000コースと急増しました。その後もブームは衰えず、どのゴルフ場も予約は断るのが仕事、予約方法も現在の様な電話やメールではなく、会員が直接来場し、予約の順番を取るために前日から車中で仮眠して待つこともあり、早朝からフロント前に並ぶ光景は、今考えれば異常でしたが、当時はそれが普通でした。勿論、代理人は認めず厳格に実行されていました。当然ながらプレーは会員同伴が原則、会員が来場せずゲストのみ来場してもフロントでお断りです。プレー代も土曜日は4人で20万円、それでも毎週キャンセル待ちでした。その様な状況の中、所謂会員権相場も私が入社時は500万円前後、ピーク時は2億8千万円、1週間に1千万円相場が上がった事もあり、まさしくバブルでした。その様な昭和の時代が続く中、平成に入りバブル崩壊です。企業の接待ゴルフが激減、ゴルファーの高齢化、リーマンショック、東日本大震災と業界の厳しい環境は現在も続いています。その要因の1つがゴルフ場の数です。ピーク時約2400コース、ゴルフ人口が半減してもコースはバブル期のままです。需給のバランスが崩れているのです。過去のスキーブーム、ボウリングブームの去った後を考えれば、この業界も大きな転換期を迎えていると思っています。スキーやボウリング、ゴルフについても同じで、一定数の需要がありますが、それを支えているのが中高年である事です。ゴルフ業界だけではありませんが、根底にあるのが、日本が抱えている人口減少問題です。人口減少に伴う需要減少、供給過多の問題に真剣に取り組まなければ、日本の将来は非常に暗い見通しばかりではないでしょうか。

スマイル報告 今年度累計 ¥103,100

笠井透 会員 今日、私の例会出席最終となります。頑迷な老人にならぬよう、軽い不良老人になります。老愁、老醜、老臭には気を付けます。

大野治雄 会員 長い休みで大変申し訳ありません。

会員数	免除者	出席者	欠席者	他 RC メイク	その他 R 活動	本日の出席率
14名	2名	8名	4名	0名	4名	66.67 %